

# 一人一人を大切にすることができる児童の育成

名古屋市立東築地小学校

## 1 本年度の活動とそのねらい

本校では、周りの人々との関わりを大切にし、互いのよさを認め合って生活することのできる児童を育成していこうと考え、日々の教育活動に取り組んでいる。昨年度は挨拶運動や児童会行事を中心に、自分に関わる一人一人を大切にし、よりよい人間関係を形成していくことを目指した実践を重ねていった。

実践を通して、登校時の挨拶運動では、自分から先に挨拶をしようとする児童が増えたが、単に大声での挨拶がよい挨拶と考えている児童もいた。また、児童会行事では、異学年での活動が相手との関わりを意識することに有効であったことが分かった。

そこで本年度は、下の表のような発達段階に即した課題を設定して実践を行い、日々の生活の中で、児童が周りの人を大切にし、その気持ちを相手に伝えることができるように、よりよい人間関係を形成していこうとする姿を目指して人権教育を推進することにした。

発達段階	発達課題		
	知識	価値・態度	技能
低学年	相手に自分の気持ちを伝えることの大切さを知る。	自分の周りの人を大切にし、相手の頑張りを認めようとする。	周りの人を大切にし、感謝の気持ちを言葉で伝えることができる。
高学年	互いを尊重して相手を思いやる行動の大切さを知る。	自分の周りの人を大切にし、思いやる言葉掛けをしようとする。	周りの人の思いをくみ取り、進んで相手を思いやる行動をすることができる。

## 2 活動内容と児童の変容

### (1) 実践例1 「東築地N I A活動」【全学年 児童会活動 価値的・態度的側面】

#### ① 実践のねらい

心のこもった挨拶ができていないかを振り返り、互いの頑張りについて認め合うことで気持ちのよい挨拶を心掛け、互いを大切にすることを高めることができるようにする。

#### ② 実践の内容

本校では、「挨拶は気持ちのよい人間関係をつくる第一歩である」と考え、「(N)名古屋で(I)一番(A)挨拶が響く学校を目指そう」と、挨拶の習慣化に取り組んでいる。本年度は、名札の裏にいつでも入れておくことができる「メンバーズカード」を配付し、自分の挨拶に対するめあてを決めたり、気持ちのよい挨拶ができていないかを定期的に振り返ったりした。そうすることで、相手に気持ちのよい挨拶を届けようとするようになることができ、よりよい人間関係づくりにつながると考え、実践に取り組んだ。

### ③ 結果と考察

三つのめあてである「目を見て」「自分から」「1の付く日はパワーアップ」から自分のめあてを選択して取り組んだ。また、自分のめあてが達成されているか定期的に対話を通して振り返った。振り返りの中では、互いの取り組みへの頑張りを認め、励まし合い、意欲を高めながら、次からの挨拶活動に生かそうとすることができていた。朝、教室で進んで挨拶をする児童が増えてきており、互いが気持ちよく過ごせるようにと、相手を大切にす気持ちの高まりが見られた。



【メンバーズカード】

## (2) 実践例2 「作品展」【全学年 文化的行事 技能的側面】

### ① 実践のねらい

文化的行事「作品展」での、異学年で協力する活動を通して、相手を尊重し、思いやる行動をしたり、感謝の気持ちを伝えたりすることができるようにする。

### ② 実践の内容

作品展では、異学年でペアを組み、共同制作として海の生き物をちぎり絵でつくる活動を行った。また、1年生から6年生までを含む異学年で構成した縦わりのグループで一緒に作品を鑑賞する活動を行った。一緒に会場内をグループで回り、それぞれの作品を紹介し合い、作品のよい点を相手に伝え合うことを大切にしようと考えた。そのため、自己紹介や簡単なゲームをして交流を深める「交流会」の集会の回数を昨年度よりも増やし、仲が深まった状態で作品展を迎えられるようにした。

### ③ 結果と考察

異学年での共同制作では、一つのものを作り上げる体験を通して、協力することで得られる達成感を味わうことができていた。また、異学年での鑑賞では、上学年の児童がグループの下学年の児童に優しく説明したり、下学年の児童が上学年の児童に褒められたりした。相手の頑張りを認め、相手を思いやる言葉掛けをすることにつながった。



【異学年グループで鑑賞する様子】

## 3 活動の成果と次年度への課題

作品展での鑑賞では、グループの中で「上手にできたね」「ありがとう」などのやり取りが生まれ、「自分も来年、高学年の人みたいな作品をつくりたい」「優しくしてくれてうれしかった」と振り返る児童も多くいた。児童が異学年での交流会やグループ活動を出会いのきっかけにすることで、休み時間に一緒に遊んだり、校舎内で出会うと進んで挨拶や「元気？」と声を掛け合ったりする児童が増えてきた。

来年度は、年間を通した異学年交流に取り組んでいこうと考えている。児童が周りの人との出合いを大切にし、その気持ちを相手に伝えることができる児童の育成につなげていきたい。